

オンライン講義のあり方について  
令和2年度 第1回 国際商学部 FD・SD 研修会

河瀬宏則（国際商学部）

July 16, 2020

# はじめに

オンライン講義、本当にお疲れ様です！  
大学スタッフの総力でここまでこれたと思います。

これまでの検討事項 (一部)

- ① オンライン講義にするかどうか？
- ② 4月から大学は始められるのか？
- ③ 感染者への対応は？
- ④ 大学内の三密回避はどう達成するか？
- ⑤ 2Q プログラムは実行可能なのか？
- ⑥ **オンライン講義のデザイン**
  - ▶ 教員も学生も、ツールの習熟で戸惑わない
  - ▶ 授業本来の質を下げないこと

# オンライン講義のデザイン

## 当初の問題点

- ① オンライン講義のツールは何を使うか？
- ② 学生からの質問にどのように対応するか？
- ③ 出席はどうやって取るのか？
- ④ グループワークは可能なのか？
- ⑤ 学生側のネット環境をいかに担保するか？
- ⑥ 板書はどうやって行えるのか？

# オンライン講義のデザイン

## オンライン講義のツールの選択肢

- ① Zoom
- ② Teams
- ③ Webex
- ④ Google Meet
- ⑤ Skype

数多くのサービスが一気に登場、本学は Zoom を選択

→ 結果的に最良の選択であったように思います

# オンライン講義のデザイン

## オンライン講義のツールの検討事項

- ① 画質
- ② 音質
- ③ 通信量（通信の安定性）
- ④ 参加人数
- ⑤ セキュリティ
- ⑥ 画面共有機能

# オンライン講義のデザイン

## Zoom のセキュリティ問題

- ① 他者の参入 → Zoom リンクの限定公開
- ② 見逃し配信 → 限定公開とダウンロード不可設定

この問題を Teams と Streams が解決します

- ① Teams は受講者限定に連絡が可能
  - ▶ 受講者確定前であっても OK
  - ▶ 資料の配布、見逃し配信のリンク配布にも有用
- ② Stream は限定公開かつダウンロード不可

# オンライン講義のデザイン

学生からの質問にどのように対応するか？

→ 双方向性の確保が文科省からの要件の1つ

質問の受付（授業中）

- ① Zoom のチャット（匿名）
- ② Zoom のチャット（非匿名）
- ③ sli.do

質問の受付（授業外）

- ① Forms
- ② メール
- ③ Teams のチャット

# オンライン講義のデザイン

出席はどうやって取るのか？

- ① Forms のアンケート機能を用いた小テスト
  - ▶ 学籍番号（ycu メールアドレス）を自動的に取得可能
  - ▶ 重複回答の防止
  - ▶ 期限設定が可能

他のサービスと比較して、出席確認として有効



# オンライン講義のデザイン

グループワークは可能なのか？

→ Zoom のブレイクアウトセッション

- ① Zoom のミーティングルーム内に小部屋を作る機能
- ② 大部屋では積極的に発言しない学生たちも、小部屋内では会話できる？
- ③ Zoom での授業外グループワークは、大学に集まる必要がなく、会議がしやすい？

# オンライン講義のデザイン

学生側のネット環境をいかに担保するか？

→ “ネット難民” 学生への対応

- ① 教室を一部開放する？  
→ 半対面・半オンライン講義？
- ② 給付金の支給？
- ③ 実家に帰って受講する？

前期は全学で原則オンライン講義、という決定へ  
(半対面・半オンライン講義の困難さ)

# オンライン講義のデザイン

もし半対面・半オンライン講義を実施するなら？

- ① ハードウェアの準備
  - ▶ ビデオカメラ
  - ▶ キャプチャーボード
  - ▶ ヘッドセット
  - ▶ ほか
- ② 各授業に SA の配置
  - ▶ オンライン講義側の環境維持
  - ▶ 事前事後のセッティング
- ③ 通信環境の確保

# オンライン講義のデザイン

板書はどうしたらよいのか？

- ① 良いカメラを使う（板書範囲を映し出す）
- ② iPad を使う
- ③ 液晶タブレットを使う

# オンライン講義のデザイン

残る問題点：試験でカンニングを防げない → 暗記系の試験は実施困難

- ① レポートなどの論述試験にする
- ② カンニングができないような制限をする
- ③ カンニングを前提に問題設計する
  - ▶ 東京大学大学院の情報理工学系研究科数理情報学専攻ではオンラインの筆記試験・口述試験を実施予定とのこと  
<https://www.i.u-tokyo.ac.jp/edu/course/mi/admission.shtml>

# ハイリスクなオンライン講義

オンライン講義はうまくいくのか？

- 「オンライン講義なんてハイリスクだ！  
授業の質は下がるし、絶対に失敗する！」という声（幻聴）
- こうした考えに賛成ですか？ → 私は No
  
- ファイナンス領域では「リスク」という言葉の理解が必要  
→ 「不確実性」として表現
- 結果がどうなるかわからない  
→ すごく良い結果になるかも、すごく悪い結果になるかも

# ダウンサイドリスク

たしかにオンライン講義はハイリスクだと思います

- ① 対面授業ではできないことが多い
- ② 板書が見にくい
- ③ 通信量もたくさん必要
- ④ ディスプレイを見続けて目のピントが合わない

# アップサイドリスク

いい面もある？

- ① 通学時間は不要 → 寝坊などの欠席は減る？
- ② 体調が良くない → オンデマンド受講
- ③ 就職活動 → 見逃し配信で欠席せずに済む

教員にとっても Good？

- ① 人前に立たなくて良いので緊張しない
- ② 学生の私語が気にならない
- ③ 研究室で授業ができるから、研究→授業→研究の切り替えがスムーズ



## ハイリスク→絶対に失敗、ではない

失敗するかもしれないし、成功するかもしれない

- ① 成功するように、後々オンライン講義に移行して成功だったと評価されるように
- ② どうやって成功だったかを評価すべきか？

オンライン講義の評価指標の一例

- ① 出席率
- ② 成績
  - ▶ GPA の推移（全体として）
  - ▶ S 評価の割合
  - ▶ 評価のボラティリティ
- ③ 授業評価アンケート：特に学習時間の変化

## まとめ：オンライン講義の成功要因

なにより関係者各位の積極的な対応のおかげ  
大学の Zoom 導入やオンライン講義全面導入はもちろん、

### 教員側の準備

- ① オンライン講義のツールを一本化した  
→ 学生側の習熟が早い、混乱が少ない
- ② 5月スタートにより、講習会など、準備期間が与えられた

### 学生側の準備

- ① オンライン環境の準備 ← オンライン講義のサイトが有用
- ② Zoom や Teams への事前レクチャー

先生方とオンライン講義の Good / Bad Points を共有できれば幸いです